

アニマル・セラピーの効用について

三村 咲 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金田 安正

キーワード：アニマル・セラピー,パロ,高齢化社会

1. 諸言

医学的なテレビの番組で脳性麻痺の子がイルカとふれあったことにより,今まで動かなかった手が動くようになることや,笑顔がなかった人が犬とふれあうことにより笑顔が増えた,という話を見たことがある.

治療を行ってもよい結果がうまれない時でも,動物が加わることによって何かしらのよい効果がうまれていることに興味をもった.その動物が人に与える,目には見えない不思議な力は何なのかを知りたくなった.

このような動物により治療をすることをアニマル・セラピーと言うが,本研究では,その効用について研究することを目的とする.

さらに,これからの日本は深刻な高齢化社会に進んでいるが,アニマル・セラピーの効用が高齢化社会の日本に活用されるのではないかと考え,加えて研究することとした.

2. 研究方法

アニマル・セラピーについて書かれている文献を読み,アニマル・セラピーの効用が高齢化社会に進む日本にどのような効果をもたらすのかを考えた.

3. 結果と考察

1) アニマル・セラピーとは何か

アニマル・セラピーは2種類に定義分けされている.①「アニマル・アシステッド・アクティビティ(動物介在活動)=AAA」と②「アニマル・アシステッド・セラピー(動物介在療法)=AAT」である.

2) アニマル・セラピーの効果

いろいろな角度から研究された報告データ

をまとめると,生理的効果,心理的効果,社会的効果に分けることができ,それらが複雑に混ざりあって人々に影響を与えているのではないかと考えられる.

3) 日本のアニマル・セラピーと問題点

アニマル・セラピーには,動物へのアレルギー,感染症の可能性,かみつきやひっかき,1人暮らし等で飼育・管理が困難,飼育禁止のアパートやマンションがあるなど,主に5つの問題点がある.

これらのことから,日本で治療目的として病院などの施設で,実際の動物を使つてのアニマル・セラピーを取り入れるには問題点が多い.

これらの問題を解決するために,日本の産業技術総合研究所は,セラピー効果があるロボット「パロ」を開発した.

4) 考察

現在,高齢者は増加しているが,介護をする人が少なく双方の割合があわず,高齢者の介護問題にもつながっている.アニマル・セラピーは介護をする側,される側双方に,とても良い効果を残してくれている.高齢化社会に進む日本では,アニマル・セラピーの力が増々必要になってくると考えられる.しかし,動物を使つてセラピーを行うことには問題点も多い.動物とふれあうことに問題がある場合,パロを取り入れるなど,個人個人にあったアニマル・セラピーを,支援する人とともに考えていくことが望まれる.

人工のアザラシ型ロボット「パロ」の毛並みが柔らかく,触り心地がよいことなどから,癒し効果が高いということで,ギネスブックでも認定されている.